# 3. 事業概要

## (1) 常　設　展

常設展示室（展示室Ａ・Ｂ）は全体で５室の構成となっている。第１室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第２室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第３室は芥川龍之介コーナー、第４室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室として年４回春夏秋冬に一部の資料の入替えを行っている。第５室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年２回入れ替えて紹介している。

以下の資料一覧には、令和６年３月５日（火）～令和７年３月２日（日）の間、常設展に出品した資料すべて掲載した。

## 第1室

### テーマ展示

#### ◆ 春の常設展　３月４日（火）～６月１日（日）
#### 飯田蛇笏　生誕140年

・蛇笏『山廬集』序文原稿
・川端龍子画　蛇笏肖像（『山廬集』口絵原画）
・蛇笏「自然」軸装
・「蛇笏の一句」アンケート原稿
　第１期　阿波野青畝・俵万智・石和鷹・吉増剛造・金田一春彦・三橋敏雄
　第２期　芥川瑠璃子・若山旅人・白簱史朗・石垣りん・森澄雄・竹盛天雄
　第３期　桂信子・橋間石・辻邦生・萩原英雄・辻井喬・川崎洋

#### ◆ 夏の常設展　６月３日（火）～８月24日（日）
#### 戦後80年 文学者と疎開　井伏鱒二・太宰治

・井伏鱒二「げにわがために吾がためにわれは貧しくひとり咲く」軸装
・井伏鱒二　岩月くま宛書簡　1945（昭和20）年7月12日
・井伏鱒二　岩月くま宛書簡　1945（昭和20）年10月7日
・井伏鱒二　岩月英男宛はがき　1959（昭和34）年12月16日
・井伏鱒二「二つの話」原稿
・太宰治　井伏鱒二宛書簡　1945（昭和20）年8月末（推定）
・太宰治　青木辰雄宛はがき　1945（昭和20）年10月30日
・太宰治『パンドラの匣』双英書房版あとがき原稿
・太宰治　熊王徳平宛はがき　1944（昭和19）年9月10日
・太宰治　熊王徳平宛はがき　1946（昭和21）年5月13日
・太宰治『パンドラの匣』1946（昭和21）年6月　河北新報社
・太宰治『パンドラの匣』1948年6月　双英書房

#### ◆ 秋の常設展　８月26日（火）～11月30日（日）
#### 戦後80年 文学者と疎開　金子光晴生誕130年

・金子光晴「牡丹」原稿
・金子光晴「機械」草稿
・金子光晴「僕はゆく」色紙
・金子光晴「蛾」色紙
・金子光晴『鮫』1937（昭和12）年8月 人民社 署名本
・金子光晴『落下傘』1948（昭和23）年4月　日本未来派発行所
・金子光晴『蛾』1948（昭和23）年9月　北斗書院
・金子光晴『鬼の児の唄』 1949（昭和24）年12月　十字屋書店
・「中央公論」第57巻第7号　1942（昭和17）年7月
・「新日本文学」第1巻第2号　1946（昭和21）年4月

### ◆ 冬の常設展　12月２日（火）～令和８年３月８日（日）
### 自由律の俳人　秋山秋紅蓼

・「壺中天地ありこゝに一個の密柑を置く」自画賛　軸装
・「山の桜が谷へちりいまも古里である」短冊
・「山の桜が谷へちりいまも古里である」短冊
・「夕べの不二のはれてゐるをまづしくすむ」自画賛　一枚物
・「日向葵大きくて少年世のゆがみを知る」短冊
・「星がてつぺんに一つある杉の木」短冊
・「影はまつたく大輪の菊である」自画賛　色紙
・「層雲」第4巻第5号　1914（大正3）年8月
・『夜の富士』1931（昭和6）年9月　大象社
・『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月　沙羅書店
・『梅花無限』1965（昭和40）年10月　早春句会
・『俳句表現論』1958（昭和33）年10月　層雲社
・『俳句表現論』原稿
・「ふるさとの山」原稿
・「鰍沢中学校々歌」原稿

## 山梨の文学風土

### ◆ 甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

### ◆ 甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』巻之十五　元文元年序文「峡中紀行」収録〈複製〉
賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

### ◆ 甲府学問所　徽典館

乙骨耐軒「徽典館学頭勤務割」
甲府勤番支配宛　徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「甲役途中詩」
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「維心亭齋詩初稿付外集」

### ◆ 国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊
萩原元克「うまひとのとひきまさずばいたづらに庭の真萩はちりゆかましを」短冊
本居宣長点　辻守瓶「思往事」一枚物
本居宣長点　辻守瓶「詠松浦佐用嬪」ほか

## 山梨出身・ゆかりの作家と作品

### 樋口一葉（ひぐち　いちよう）

樋口一葉「水石契久 さゞれいしの昔よりして契りけん岩ねをめぐるたに河のみづ」短冊軸装
樋口一葉「寄紅葉恋」（数詠補遺）1894（明治27）年11月22日　軸装
樋口一葉　馬場孤蝶宛書簡　1895（明治28）年10月9日
樋口一葉　馬場孤蝶宛書簡　1896（明治29）年5月30日
樋口一葉「にごりえ」関連未定稿
樋口虎之助作　薩摩焼絵付皿（東海道五十三次）
青海学校二級后期卒業證書
幸田露伴「一葉女史日記の後に書す」原稿
木村荘八「たけくらべ絵巻」画稿控（筆屋）
筆立て

こうがい・根掛け・筋立
短冊ばさみ
映画「にごりえ」ポスター
新五千円札（A000006A番）
五千円札（最終製造券 LD899997J番）
写真パネル　次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
写真パネル　母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに（本郷6丁目5番屋敷時代）
写真パネル　萩の舎集合写真
写真パネル　半井桃水
写真パネル　竹内桂舟 画「うもれ木」第７回挿絵
写真パネル　文学界同人
写真パネル　一葉女史の碑建碑の日　1922（大正11）年10月15日
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
樋口一葉「たけくらべ」未定稿〈複製〉
樋口一葉　伊庭隆次宛書簡　1892（明治25）年7月28日〈複製〉

# 第２室

## 井伏鱒二（いぶせ　ますじ）

井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装
井伏鱒二「送状　本日水門町共に飲みました　叱らないで下さい」奥山靈「人の気も知らないで」額装
井伏鱒二・奥山靈「送状　水門町ハ大酔我等大酔　奥さん叱る勿れ」額装
井伏鱒二「はるのねざめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装
井伏鱒二「富士には月見草がよく似合ふ」軸装
井伏鱒二「今宵は仲秋明月初恋を偲ぶ夜」軸装
井伏鱒二「さびしい庭にまつかさおちてとてもお前はねにくうござろ」軸装
井伏鱒二「なだれ」色紙額装
井伏鱒二「わたしのこゝろの大空に舞ひ狂ふはるかなる紙凧ひとつ」色紙
井伏鱒二「青柳瑞穂と骨董」原稿
井伏鱒二「蛇笏碑のこと」原稿
井伏鱒二「旧・笛吹川の址地」原稿〈複製〉
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二「十一月二十四日記」原稿
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月　新潮社
井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年4月　弥生書房
井伏鱒二『山椒魚』1976（昭和51）年9月　成瀬書房
井伏鱒二『小黒坂の猪』1974（昭和49）年7月　筑摩書房
写真パネル　取材のため下部温泉を訪れた井伏

## 太宰　治（だざい　おさむ）

檀一雄「おめざの要る男」原稿
津島美知子 早川徳治宛はがき　1953（昭和28）年11月11日
津島美知子 井伏鱒二宛書簡　1953（昭和28）年11月1日
太宰治「斜陽」草稿〈複製〉
太宰治「ア、秋」原稿〈複製〉
太宰 治「富士には月見草がよく似合ふ」原稿〈複製〉
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
写真パネル　甲府市水門町（現・朝日1丁目）の石原家玄関横で　1939（昭和14）年元旦
写真パネル　結婚式
太宰治御坂峠文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」拓本軸装
太宰治『晩年』1936（昭和11）年6月　砂子屋書房
太宰治　高田英之助宛はがき　1939（昭和14）年1月11日
太宰治　高田英之助宛書簡　1939（昭和14）年1月17日〈複製〉

太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年1月　新潮社
太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉

## 檀　一雄（だん　かずお）

檀一雄「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙〈複製〉
檀一雄「花を天に挿ざし月を地に展ぶ」色紙
檀一雄「此処ニ浮足立つた男が一人居て」色紙
檀一雄「萬葉びとの声」原稿
檀一雄「逗留客」原稿
檀一雄「師の墓地」原稿
檀一雄「太郎生後九十四日」額装〈複製〉
檀一雄「旅立ち」原稿〈複製〉
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年4月　作品社
檀一雄「蠟涙」「新潮」（『火宅の人』第10章）原稿
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第１章）原稿〈複製〉
檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年6月　新潮社
映画「火宅の人」ポスター　1986（昭和61）年　東映
檀一雄『長恨歌』1951（昭和26）年3月　文藝春秋社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年9月　新潮社

## 山本周五郎（やまもと　しゅうごろう）

映画「赤ひげ」パンフレット　1965（昭和40）年　東宝
「つゆのひぬま」パンフレット
映画「海は見ていた」ポスター
山本周五郎「狂い咲きの嬌女」原稿
映画「ひとごろし」ポスター
「いのちぼうにふろう」ポスター
写真パネル　散歩する周五郎　撮影　秋山青磁
写真パネル　浦安時代　撮影 林忠彦
写真パネル　右から周五郎、高森栄次、山手樹一郎　1935（昭和10）年頃　撮影　秋山青磁
写真パネル　1936（昭和11）年正月に馬籠の自宅前にて　撮影　秋山青磁
写真パネル　書斎　間門園　無人　撮影　秋山青磁
山本周五郎　佐藤俊雄宛書簡　年月日不明
山本周五郎　今井達夫宛書簡　1946（昭和21）年9月3日消印
村上幽鬼「染血桜田門外」草稿〈複製〉
和泉比呂詩「五月の野辺」草稿〈複製〉
清水清「或る男女の話」草稿〈複製〉
清水清「空蝉」草稿〈複製〉
山本周五郎「青べか物語　毒をのむと苦しい」原稿
山本周五郎「青べか物語」原稿〈複製・原本 神奈川近代文学館蔵〉
べか船模型一式
山本周五郎『青べか物語』1961（昭和36）年1月　文藝春秋新社
「青べか物語」台本　脚本　進藤兼人
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿〈複製〉
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年2月　朝日新聞社
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年2月　文藝春秋新社
「新少年」別冊附録『シャーロック・ホームズ』1935年12月

## 深沢七郎（ふかさわ　しちろう）

深沢七郎　小林冨司夫宛はがき　1959（昭和34）年10月12日
深沢七郎　川久保正郎宛はがき　1966（昭和41）年1月8日

桃原青二　太田孝宛書簡　1956（昭和31年）10月5日
写真パネル　ギタリストの頃
写真パネル　夢屋にて　撮影 佐藤真樹
写真パネル　笛吹市石和町の甲運亭にて　1976（昭和51）年4月6日
今川焼屋「夢屋」包装紙　デザイン 赤瀬川原平
深沢七郎「盆栽老人とその周辺」原稿
深沢七郎「母校訪問」原稿
深沢七郎「楢山節考」原稿〈複製〉
深沢七郎「笛吹川」草稿〈複製〉
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」部分原稿
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年2月　中央公論社
「楢山節考」ポスター　1983（昭和58）年
「楢山節考」台本　脚本　木下恵介
松竹「楢山節考」映画プログラム　1958（昭和33）年4月　外国映画出版社
岡本克己脚色「狂言楢山節考」台本
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月　中央公論社
映画「笛吹川」ポスター　1960（昭和35）年　松竹
映画「笛吹川」パンフレット　1960（昭和35）年　松竹
「笛吹川」映画シナリオ

## 山崎方代（やまざき　ほうだい）

山崎方代「托鉢のわらじのひもも太くして鎌倉山の春はゆるめり」軸装
山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛なり」軸装
山崎方代「すりばちの底の方より太陽が燈(ともし)を付けて上って来る」軸装
山崎方代「賦」額装
山崎方代「寂しくて一人笑えば茶ぶ台の上の土瓶が笑い出したり」額装
山崎方代「一ひらのさくらの花が流れ来て黒き机の上にとまれり」短冊
山崎方代「おそろしきこの夜の山崎方代を鏡の奥につき落とすべし」軸装
山崎方代「茶碗の底に梅干の種が二つ竝びをるこれが愛というものだ」軸装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」短冊
山崎方代「何にこともなかつたように日は西の」軸装
山崎方代「一枚のあかき落葉がとこしえに木曽谷深く降りてゆく」短冊
山崎方代「かたぶける夜更の月が石臼の穴を二つに引きさきにけり」短冊
山崎方代「冬の陽が遠く落ちゆく橋の上ひとり方代は瞳をしばだたく」短冊
山崎方代「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊
山崎方代「土びんについて」草稿
山崎方代「木犀の花の香りが風にのり路地一ぱいは黄金色なり」短冊
山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられて吾が帰る村」軸装
山崎方代「青桐のたれし夕べのもやの中花より白き君にしたがう」色紙
山崎方代「とし月のさわさりながらさわあれどおしたい申しており候よ」色紙
山崎方代「去年の雪いづくにありや野ぶどうはひそひそ白き萼をこぼしおり」色紙
山崎方代「うの花は白い花なりゆくりなくめくり逢いたりあなたなりけり」扇面色紙
山崎方代「何処かで」短歌草稿
山崎方代「瑞泉寺 右左口 心げう寺 安国寺」草稿
フランソワ・ヴィヨン　『ヴィヨン詩鈔』〈複製〉
愛用品　眼鏡、ルーペ、『広辞苑』
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月　山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月　短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月　短歌新聞社
山崎方代『青じその花』1981（昭和56）年12月　かまくら春秋社

山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月　不識書院
写真パネル　拡大鏡で執筆（十朱幸代・広辞苑）撮影 湯川晃敏

## 中村星湖（なかむら　せいこ）

中村星湖「あら玉の年たち帰るこのあした真白き富士に見よ茜さす」一枚物
中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
中村星湖「女のなか」原稿〈複製〉
中村星湖『二葉亭四迷を語る』草稿
中村星湖『うら富士雑話Ⅰ』草稿
中村星湖訳「湖上の美人」翻訳草稿
「早稲田文学」第17号　1907（明治40）年5月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇　1915（大正4）年10月　植竹書院
中村星湖『ボワリイ夫人』1916（大正5）年6月　早稲田大学出版部
中村星湖『女のなか』1914（大正3）年10月　早稲田文学社

## 前田　晁（まえだ　あきら）

窪田空穂　前田晁宛書簡　1926（大正15）年7月21日7月5日
三木露風　前田晁宛書簡　1910（明治43）年
前田晁「独歩さんの笑顔と警句」原稿
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
前田晁『少年国史物語』原稿〈複製〉
前田晁訳「エミイル」翻訳草稿
前田晁『明治大正の文学人』1942（昭和17）年4月　砂子屋書房

## 三井甲之（みつい　こうし）

インク壺･筆立て
三井甲之「文壇時評」草稿
「アカネ」創刊号　表紙原稿　1908（明治41）年2月〈複製〉
「アカネ」第1巻第1号　目次草稿
「アカネ」第2巻第4号　1909（明治42）年5月
三井甲之「甲之歌集　第一巻」自筆歌集

## 中里介山（なかざと　かいざん）と山梨

中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月　玉流堂
中里介山『大菩薩峠　鈴鹿山の巻』第1冊　第1巻・第2巻　1921（大正10）年5月　春秋社
中里介山『大菩薩峠　甲源一刀流の巻』1921（大正10）年5月　春秋社
中里介山「大菩薩峠　白骨の巻」原稿〈複製・原本 日本近代文学館蔵〉
中里介山「大菩薩峠　他生の巻」原稿〈複製・原本 日本近代文学館蔵〉
「大菩薩峠　めいろの巻」新聞切り抜き
「大菩薩峠」リーフレット1951（昭和26）年1月　新国劇初春公演　名古屋御園座

## 伊藤左千夫（いとう　さちお）と山梨の歌人たち

日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
伊藤左千夫　岡千里宛はがき　1906（明治39）年7月6日
伊藤左千夫　岡千里宛はがき　1906（明治39）年8月3日消印
伊藤左千夫　岡千里宛はがき　1906（明治39）年11月11日
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1912（明治45）年2月14日
日原無限　歌稿
日原無限ほか「甲斐楓會（題苔）」原稿　「アカネ」第1巻第4号　1908（明治41）年5月掲載

岡千里「木末より一輪落ちて花くずのくれなゐ叫び動きたるかも」短冊
岡千里「落椿地上にあそび居たりける青鵐のつがひ枝に上れり」短冊
岡千里「落つばき真赤なりけりひたひたと今も落ちつゝ真赤なりけり」短冊
岡千里「永劫に山河亡ひす落椿すぎたる人の慕はしきかも」短冊
岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂ふ初冬の風」短冊
伊藤左千夫　岡千里宛書簡　1912（明治45）年2月19日消印
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいだし芽あるとなしを選りわけるかも」短冊
神奈桃村「神奈桃村日記」第1号　1906（明治39）年1月1日～12月30日　1月7日頁
神奈桃村「神奈桃村日記」第2号　1916（大正5）年10月15日～1922（大正11）年2月28日
「アラヽギ」第2巻第1号　1909（明治42）年9月
「アカネ」第1巻第4号　1908（明治41）年5月

## 秋山秋紅蓼（あきやま　しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼　自画賛「朝は花を一輪さしてこゝろ定る」色紙
秋山秋紅蓼　素描「猫の画他」から「朝顔」
秋山秋紅蓼「獅子」他画一枚物の内「銀座大増の大福」
秋山秋紅蓼「文楽人形」スケッチ　1938（昭和13）年7月16日
秋山秋紅蓼「正月」句稿
秋山秋紅蓼「葡萄礼讃」句稿
秋山秋紅蓼「夏みかん」句稿
秋山秋紅蓼「牡丹」原稿
秋山秋紅蓼「語音感の働きについて」原稿
秋山秋紅蓼「あとがき」原稿
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説―自由律の限界と新表現の設定」原稿〈複製〉
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月　沙羅書店

## 田中冬二（たなか　ふゆじ）と山梨

田中冬二　深沢正志宛書簡　1964（昭和39）年4月9日〈複製〉
田中冬二「ラムネ」色紙
田中冬二「奈良田にて」色紙〈複製〉
田中冬二『若葉雨』自筆句集（折帖）1970（昭和45）5月記
田中冬二「山の祭」直筆一冊本　1956（昭和31）年12月〈複製〉
田中冬二「初心忘るべからず」草稿
田中冬二「正月の顔」草稿
田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月　第一書房

## 木々高太郎（きぎ　たかたろう）

木々高太郎「殺人鬼に罠をかけろ」原稿
木々高太郎「盲ひた月」原稿
木々高太郎「ねむり妻」原稿
木々高太郎「美の悲劇」原稿〈複製〉
木々高太郎「雑誌と新聞」草稿
木々高太郎『人生の阿呆』1936（昭和11）年7月　版画社
木々高太郎『眠り人形』1935（昭和10）年4月　春秋社
「文藝春秋」第15巻第3号　1937（昭和12）年3月　第4回直木賞発表
「新青年」第16巻2号　1935（昭和10）年2月

## 小尾十三（おび　じゅうぞう）

小尾十三　井伏鱒二宛書簡　1950（昭和25）年6月2日
小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉

小尾十三「青き大麦畠にて」原稿
小尾十三「怨恨」草稿
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月　満洲文藝春秋社
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月　満洲文藝春秋社〈復刻〉
小尾十三『ひとりっ子の父』1981（昭和56）年10月　第三文明社
芥川賞記念品の腕時計

## 村岡花子（むらおか　はなこ）

村岡花子「思春期と讀みもの」原稿
村岡花子「日光の町」原稿
村岡花子「一ばん悲しいこと」原稿
村岡花子「彼と彼女」原稿
村岡花子「赤毛のアン」第４章翻訳原稿〈複製〉
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月　三笠書房
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』〈複製〉
村岡花子『随筆集 心の饗宴』1941（昭和16）年4月　時代社

## 徳永寿美子（とくなが　すみこ）

徳永寿美子「あんじゅとずしおう」草稿
徳永寿美子「かぐや姫」草稿
徳永寿美子「フランダースの犬」草稿
徳永寿美子「母をたずねて三千里」草稿
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年2月　アルス〈複製〉
「母」第６年第８号〈複製〉
徳永寿美子「小公子」翻訳原稿〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年5月　広島図書
徳永寿美子『あんじゅとずしおう』1958（昭和33）年9月　実業之日本社

## 八木義徳（やぎ　よしのり）と山梨

八木義徳「「御身」について」原稿
八木義徳「きげんのいい男」原稿
八木義徳「第三次早稲田文学が復刊されたのは」原稿
八木義徳「『生れ出づる悩み』（有島武郎）」原稿
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年3月 世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月　河出書房新社
『八木義徳全集』第4巻　1990（平成2）年6月　福武書店　妻正子に宛てた献辞入
「日本文学者」創刊号　1944（昭和19）年

## 武田泰淳（たけだ　たいじゅん）と山梨

司修『富士』挿絵エッチング2、4、7
武田泰淳「聖女侠女」原稿
武田泰淳「富士」第9回　原稿〈複製〉
武田泰淳『富士』特製愛蔵本　1972（昭和47）年10月　中央公論社
「海」第8巻第12号　1976（昭和51）年12月　武田泰淳追悼特集

## 李良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「石の聲」草稿第二章
李良枝「あにごぜ」草稿
李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「夜寒」草稿

李良枝『由熙』1989（平成元）年2月　講談社
「文藝春秋」第67巻第3号　1989（平成元）年2月　講談社
第100回芥川賞正賞懐中時計
愛用の筆筒・文具

### 辻　邦生（つじ　くにお）と山梨

辻邦生　大澤宏孝宛書簡　1990（平成2）年1月5日
辻邦生「埴谷雄高氏との出会い」原稿
辻邦生「失われたものたちへのレクイエム」原稿
辻邦生「遠い花火」草稿
辻邦生『背教者ユリアヌス』1972（昭和47）年10月　中央公論社
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月　新潮社
「海」創刊特大号　1969（昭和44）年7月
「新潮」1982（昭和57）年2月
文学座公演「天使たちが街をゆく」パンフレット

## 第3室　芥川龍之介

### 【大川の水（誕生・少年期）】

芥川龍之介「我輩も犬である」原稿
芥川龍之介「実話昆虫採集記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「我輩も犬である」原稿〈複製〉
芥川龍之介　水泳帽
写真パネル　実父・新原敬三
写真パネル　養父・芥川道章
写真パネル　実母・ふくと龍之介
写真パネル　左から養母・とも　伯母・芥川ふき　叔母・新原ふゆ

### 【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿〈複製〉
「新思潮」創刊号　1916（大正5）年2月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月　新潮社
芥川龍之介『点心』1922（大正11）年5月　金星堂
芥川龍之介『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社
中国の絵はがき
写真パネル　左から久米正雄、松岡譲、龍之介、成瀬正一
写真パネル　餓鬼窟で。1921（大正10）年　南部修太郎
写真パネル　中国服を着た龍之介と竹内逸三

### 【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」巻子〈複製・原本 天理大学附属天理図書館蔵〉
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」前書き原稿〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿〈複製〉
佐藤春夫纂輯『澄江堂遺株』1933（昭和8）年3月　岩波書店
写真パネル　1927（昭和2）年5月24日「現代日本文学全集」（改造社）の宣伝講演会を行った新潟高等学校で
写真パネル「時事新報」1927（昭和2）年7月25日

## 【書画の魅力】

芥川龍之介画　墨絵　軸装
芥川龍之介画「とうもろこし」
芥川龍之介画「男の像」
芥川龍之介画「亀」スケッチ
芥川龍之介画　朝鮮半島の地図
芥川龍之介「雪」作文原稿
芥川龍之介筆「諸君は何の為に文章を作るや」額装
芥川龍之介　石川寅吉宛書簡　1924（大正13）年3月8日

## 【芥川の俳句】

芥川龍之介「黒南風」関連俳句草稿
芥川龍之介「喇嘛寺のさびしさつげよ合歓の花」ほか俳句草稿
芥川龍之介「炎天や蝶をとめたる馬糞かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「沼のべの柳もぞろと霞みけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「札白し牡丹畑の夕あかり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「荘厳の甍に暮れよ合歓の花」ほか俳句草稿
芥川龍之介「青蛙おのれもペンキ塗りたてか」ほか俳句草稿
芥川龍之介「秋ふくる昼ほのぼのと朝顔の花ひらきたりなよ竹のうらに」軸装
芥川龍之介「巻煙草けむりの垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」ほか俳句草稿
芥川龍之介「ほがらなる月に落葉の匂ふかな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「いく秋をふる盃や酒のいろ」俳句草稿
芥川龍之介「木がらしの海吹き凪げるたまゆらや」他俳句草稿
芥川龍之介「はつ時雨ありとも見えぬ飛行機や」俳句草稿
芥川龍之介「町かどや入り日片照るひと茂り」俳句草稿
芥川龍之介「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」俳句草稿
芥川龍之介　飯田蛇笏宛書簡　1923（大正12）年12月1日〈複製〉
飯田蛇笏　芥川龍之介宛書簡　1926（昭和元）年12月29日〈複製〉
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月　新潮社
「雲母」第13巻第9号　1927（昭和2）年9月
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月　文藝春秋社

## 【芥川と山梨】

芥川龍之介「水虎晩帰之図」軸装〈複製〉
芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装〈複製〉
芥川龍之介　山梨夏期大学講演メモ〈複製〉
「朝陽日報」〈複製〉

## 【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
「帝国文学」第21巻第10号　1915（大正４）年11月
芥川龍之介『羅生門』1917（大正６）年5月　阿蘭陀書房
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月　春陽堂

## 【夏目漱石の手紙】

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1916（大正5）年8月21日〈複製〉

## 【芥川と児童文学】

芥川龍之介　鈴木三重吉宛書簡　1919（大正8）年11月9日〈複製〉
「赤い鳥」創刊号　1918（大正7）年7月

芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製・原本 神奈川近代文学館蔵〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月　改造社

愛用の水泳帽
「文藝春秋」創刊号 1923（大正12）年1月
『芥川龍之介全集』（1934年 岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ

# 第4室　飯田蛇笏・飯田龍太記念室

## 【境川村小黒坂】

パネル　山梨県内の地図
飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図　1899（明治32）年

## 【飯田蛇笏】

飯田蛇笏「切株や雪とけしたる猿たけ」軸装
飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春めきぬ」軸装
飯田蛇笏「雲遠き塔に上りて春をしむ」軸装
飯田蛇笏「露すゝし鎌にかけたる葛のつる」軸装
飯田蛇笏「桔梗や又雨返す峠口」軸装
飯田蛇笏「鐵のあきの風鈴鳴りにけり」軸装
飯田蛇笏「乳をたりて母牛のあゆむ冬日哉」軸装
飯田蛇笏「巫女の剣佩きたる雪月夜」軸装
飯田蛇笏「冬瀧のきけば相つぐ谺哉」軸装
山口素堂　句　飯田蛇笏　書「眼には青葉山ほととぎす初松魚」拓本軸装
飯田蛇笏「青柿の花活水をさし過ぎぬ」短冊
飯田蛇笏「河童に梅天の亡き龍之介」短冊
飯田蛇笏「山柿や五六顆おもき枝のさき」短冊
飯田蛇笏「ほけし絮の又離るゝよ山すゝき」短冊
飯田蛇笏「洪水の林の星斗秋に入る」短冊
飯田蛇笏「籠にして桝の二三枝春嵐」色紙
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊
飯田蛇笏「くろがねの秋の風鈴鳴りにけり」短冊
飯田蛇笏「山吹の落葉し尽す露の川」色紙
写真パネル　早稲田大学時代の蛇笏
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」額装　1914（大正3）年〈複製・原本 個人蔵〉
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛍かな」額装〈複製〉1927（昭和2）年
写真パネル　家族と庭前で　1917（大正6）年撮影
「俳句欄」（「国民新聞」）切り抜き
飯田蛇笏「ホトトギス」雑詠欄投句稿〈複製〉
「ホトトギス」1914（大正3）年11月 「芋の露」巻頭号
「ホトトギス」1914（大正3）年11月 「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「キララ」創刊号　1915（大正4）年5月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「キララ」第2号　1915（大正4）年6月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「キララ」第3巻第11号　1917（大正6）年11月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「雲母」10周年記念号　1924（大正13）年3月〈複製・原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「俳句研究」1934(昭和9)年8月「河童供養 - 澄江堂我鬼の霊に」掲載
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月　雲母社
飯田蛇笏「山廬雑詠」原稿　55句
飯田蛇笏「山廬集」序文原稿〈複製〉